

復興に駆ける！

第 4 2 号
平成 27 年 11 月 24 日発行
岩手県立
生涯学習推進センター
TEL 0198 - 27 - 4555

◇ 10月9日開催「連携協働セミナー」

～【講演】【ポスターセッション】【ワークショップ】の内容を2回に分けて紹介します～

(1)【講演】

「地域が元気であり続けるために」

このセミナーは今後益々重要となってくる「NPOと行政との協働」を進める足がかりにしようと、昨年度開催した「復興協働セミナー」に引き続き開催したものです。復興だけに留まらず県内各地で課題に挙げられている「地域活性化」について交流を図っていこうと考え、「NPOと行政との協働による地域活性化」をサブテーマとして掲げました。

午前中は、NPO法人神戸まちづくり研究所 野崎隆一（のざき りゅういち）理事長に「地域が元気であり続けるために」と題して講演いただきました。野崎理事は建築家であり株式会社遊空間工房の代表取締役を務めています。阪神・淡路大震災のときには、神戸の町をどのように復興していくかについて住民と議論を重ねながら、行政とのパイプ役を担いました。



神戸まちづくり研究所 野崎理事長

前半は、その時にどのように住民と協議を重ねていったのか、写真等を交えながらお話いただきました。協働はNPOと行政のイコールパートナー（対等な関係）であること、1 + 1 = 2ではなく3となるように互いの強みを活かして進めること、また互いに補完しあいながら夫婦の関係（協力するなら仲良く）であることが大事になると話されました。得られた教訓から、①「正確」で「時機を得た」「判り易い」情報は被災者の最良の判断を導く、②ひとりひとりが主役、③正しさは多様、④急がば廻れ、というメッセージをいただきました。

後半は、東日本大震災以降支援に入っている宮城県気仙沼市唐桑町の取組の様子についてお話いただきました。唐桑町も大きな被害を受けたところで、嵩上げや移転の問題を抱えています。月に1回「まちづくりサロン」を開催し、住民が集まってまちづくりについて何度もワークショップを行い、そこで出された意見や要望を行政や関係機関につなぐといった活動を続けていらっしゃるようです。

最後に、「日本中が見守っています！」という熱いメッセージをいただきました。